

## 4. 水害と治水事業の沿革

### 4-1 既往洪水の概要

沙流川における過去の洪水は、台風及び前線に起因するものが多く、内水被害、無堤地区での浸水等により人家や農作物等に多大な被害をもたらしてきている。

表 4-1 既往の主要洪水の概要表

発生年月日	原因	雨量 (mm)	平取地点 流量(m <sup>3</sup> /s)	被害等
明治 31 年 9 月 6 日	台風	不明	不明	日高支庁管内の沙流・静内・新冠の 3 群に被害、家屋全壊 102 戸、同半壊 19 戸、同流失 61 戸、同浸水 351 戸、田被害 8ha、畑同 2,535ha、平取死者 29 人、門別死者 29 人、佐留太小学校流失
大正 11 年 8 月 24～25 日	台風	門別 140	不明	日高支庁管内死者 38 人、負傷者 13 人、家屋流失 228 戸、同浸水 1,136 戸、田浸水 1,043ha、畑同 2,763ha
昭和 10 年 8 月 29～30 日	台風	浦河 55	不明	日高支庁管内死者 1 人、負傷者 62 人、家屋全壊 140 戸、同半壊 241 戸、同流失 76 戸、床上浸水 155 戸、床下同 152 戸、非住家全壊 112 戸、同半壊 232 戸、同流失浸水 292 戸、護岸決壊 2 カ所、道路流失損壊 13 カ所、橋梁同 4 カ所
昭和 30 年 7 月 3 日	低気圧 前線	日高 85	不明	沙流川上流平取町二風谷地区・ヌタツ地区・去場地区・紫雲古津地区、下流門別平賀地区・富川地区・富浜地区氾濫、平取町被害死者 1 人、家屋半壊 5 戸、同流失 12 戸、同浸水 72 戸、氾濫面積 1,927.9ha
昭和 36 年 7 月 24～26 日	低気圧 前線	74	2,920	平取町被害家屋全壊 1 戸、半壊 5 戸、流失 20 戸、床上浸水 63 戸、床下浸水 224 戸、氾濫面積 221ha、門別町床上浸水 2 戸、床下浸水 26 戸
昭和 37 年 8 月 2～4 日	台風 9 号	189	3,470	平取町被害死者 1 人、負傷者 2 人、家屋全壊 1 戸、半壊 1 戸、流失 4 戸、床上浸水 60 戸、床下浸水 99 戸、氾濫面積 590ha、門別町被害床上浸水 58 戸、床下浸水 87 戸、氾濫面積 270ha
昭和 41 年 8 月 17～19 日	低気圧 前線	117	2,180	-
昭和 50 年 8 月 22～24 日	台風 6 号 前線	120	2,250	平取町被害家屋全壊 1 戸、半壊 1 戸、床下浸水 5 戸、氾濫面積 30ha、門別町被害死者 1 人、床上浸水 2 戸、床下浸水 53 戸、氾濫面積 38ha
平成 4 年 8 月 7～9 日	台風 10 号	170	3,310	平取町被害床上浸水 9 戸、床下浸水 40 戸、門別町被害家屋半壊 1 戸、一部破損 2 戸、床上浸水 41 戸、床下浸水 43 戸
平成 9 年 8 月 9～10 日	低気圧 前線	137	1,960	門別町被害床上浸水 2 戸
平成 13 年 9 月 11～13 日	台風 15 号 前線	198	2,000	平取町被害床下浸水 2 戸、門別町被害床上浸水 2 戸、床下浸水 54 戸
平成 15 年 8 月 8～10 日	台風 10 号 前線	307	5,240	平取町被害家屋全壊 3 戸、床上浸水 45 戸、床下浸水 25 戸、門別町被害死者 3 人、重傷 1 人、家屋全壊 7 戸、半壊 6 戸、一部破損 16 戸、床上浸水 34 戸、床下浸水 147 戸

注 1) 大正 11 年の雨量は門別 1 日雨量、昭和 10 年は浦河 2 日雨量、昭和 30 年は日高 1 日雨量、昭和 36 年は平取 1 日雨量、昭和 37 年以降は平取上流での流域平均 24 時間雨量。

注 2) 平取地点流量は、平取流量観測所の実測流量値。ただし昭和 36 年は洪水報告書記載の痕跡水位からの計算値。平成 13 年、15 年の平取地点流量は二風谷ダムによる洪水調節後流量。

注 3) 明治 31 年～昭和 30 年の被害等は「鶴川沙流川治水史」による。昭和 36 年～平成 15 年の被害等は「北海道災害記録」による、平取町と門別町の値。

注 4) 北海道災害記録による被害等は集計上、支川、内水被害等を含む。門別町の被害については流域外も含む。

## 4-2 主な洪水の概要

### (1) 明治 31 年 9 月 6 日洪水

明治 31 年（1898）9 月の大水害は、多年にわたる住民の辛苦粒々たる努力も空しく根底から破壊する結果をもたらした。

まず、幌去では浸水畑地 46.6ha のうち将来耕作の見込みのないものが 36ha、長知内では土壌流亡、または、砂利をかぶったもの 31ha で、将来耕作の見込みがあるのはわずかに 2ha、貫気別では土壌流失によって川状になり、また、砂礫に変わったものは 50ha、復旧の見込みのあるものは 20ha、荷負では 50ha が河原と化して復旧の見込みはなかったが、36ha は泥をかぶったが砂礫がなく、一兩年経過すれば耕作可能な状態であった。二風谷は土壌流亡し川状、あるいは砂礫に変わったものは 147ha、平取では水勢がことに激しく、流失建物 5 戸、全壊 3 戸、総反別 182ha は一大礫地に変わり、将来再墾の見込みのあるものは、わずかに 20 分の 1 にすぎなかった。荷菜の本村では流失家屋 7 戸、同馬屋 6 棟、物置 5 棟、行方不明男女 12 人、馬 4 頭という被害を出し、完全に流亡した耕地は約 51ha、そのほかのものも砂礫を流して今後数年は再墾の見込みがなく、同サルバでは流失家屋 8 戸、同壊家 2 戸、厩流失 5 棟、流豚 27 頭、田畑 222ha すべて流失といった状態であった。沙流川の下流に至るほど水量水勢ともに激しく、耕地・建物はおろか人命まで奪う凄惨さであった。

### (2) 大正 11 年 8 月 24～25 日洪水

『北海道凶荒災害誌』によると、大正 11 年の洪水は、「8 月 18～19 日頃から小低気圧の発生が頻繁となり、ついで 24 日に至って、台風の襲来あり、それが 24 日深夜から 25 日にわたって本道の南東海岸を過ぎ」とあるが、これは、18～19 日に発生した小低気圧によって湿潤な天候となり、20 日には、まず、第 1 次的なやや多量の降雨があって、以後断続して毎日降雨が続き、24 日には台風の影響を受けた雷雨を加えて再び大量の雨が降り、ついに水害が誘発されたのである。

特に、門別の惨状は厳しく、当時の新聞は「風は咽ぶ門別の惨状」、「門別死屍累々、五十四個の死体漂着」の見出しで報じている。加えて季節も秋冷を過ぎて寒冷に向かい、「食うに食なく着るに衣なく」という状況であった。

### (3) 昭和 10 年 8 月 29～30 日洪水

昭和 10 年の洪水も大正 11 年洪水と同様に、南洋海上で発達した台風が国土東海岸を北上し、北海道南縁をかすめて北東に去ったものである。北海道を通過した時の気圧は、742 耗程度であり、かなりの勢力を持ったものであることが推察される。しかしながら、比較的風速が弱いという本道の台風の特徴のため、風速は 16m 程度と推測され典型的な雨台風となった。この時の状況は、日高町史には次のように記されている。

『降り続く雨によって村中の河川が氾濫し、橋梁、道路など破損、流失は 24 件に及び、いたるところで交通は途絶した。また田畑の浸水は実に 108 町歩におよび、収穫皆無の農家が 14 戸、三分作は 29 戸であった。村では食料、稲苗、肥料、医療などすべてにわたって救済をほどこし、また決壊道路や流失橋の復旧に国庫補助をあおぐなど、村の立て直しに奔走した』

(4) 昭和 30 年 7 月 3 日洪水

沿海州の低気圧から本道西方に延びた前線が通過したため、日高の雨量は 85mm に達した。

このため、沙流川上流部の平取町二風谷地区、去場地区、紫雲古津地区が氾濫し、下流部の門別町平賀地区、富川地区、富浜地区が氾濫した。

被害は平取町で死者 1 人、家屋半壊 5 戸、同流失 12 戸、同浸水 72 戸で氾濫面積 1,927.9ha に及んだ。

その模様は「日高村五拾年史」に、次のように記されている。

『しのつく雨の降り続きまじりともしなかった四日の朝まだき、住民はごうごう遠雷のような音に夢破られ、戸外に飛び出した時は沿岸低地の住家周辺は刻々水が迫り、田畑は水浸しになっていた。貫流沙流川の奔流は見る間に水高昂まり、荒れ狂う濁流の咆哮は所嫌わず堤防、道路を噛みくだき根こそぎの流木は荒波に揉まれて木の葉のように舞ながら、立木をなぎ倒し橋梁を撃破して押し流していった…。かくてこの水勢は大小兩岸の増水を併呑し岩石橋を跡方もなく葬り、沙流川発電所取入口を埋め水路を破壊し、伊藤吊橋を軽く流して余勢をかり右左府橋左岸寄りを中心して三岡橋、三岩吊橋、落成間もない日高橋を押し流していった。大自然の脅威は瞬く間に本流全橋梁を流失し…。』



三島集落家屋流失の跡・昭和 30 年 7 月  
(日高村五拾年史)

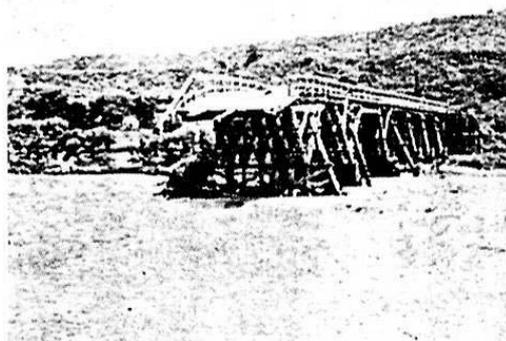


平取大橋の流失・平取町  
(昭和 30 年 7 月)

写真出典: 鶴川沙流川治水史

(5) 昭和 36 年 7 月 26 日洪水

満州の低気圧を伴った不連続線による雨は夜半すぎ本道の西海上に小さな低気圧が発生し、とみに湿った暖気をさそって雨量も多くなり、沙流川水系上流部の豊糠では 24 日から 3 日間の総雨量が 273mm に達した。このため、平取町の紫雲古津地区、ヌタツ地区、二風谷地区、門別町富川地区、富浜地区の各所で氾濫し、平取町の被害は家屋全壊 1 戸、半壊 5 戸、流失 20 戸、床上浸水 63 戸、床下浸水 224 戸で、氾濫面積は 221ha であった。また、門別町では床上浸水 2 戸、床下浸水 26 戸の被害が生じた。



流出した振内橋・広報びらとり  
(昭和 36 年 7 月)



必死の護岸作業を行う自衛隊員・広報びらとり  
(昭和 36 年 7 月)

写真出典: 鶴川沙流川治水史

(6) 昭和 37 年 8 月 4 日洪水

台風 9 号の接近にともない本道は 2 日夕方から全道的に大雨となる。その後、台風 9 号は日本海を縦断し、4 日夜半すぎに北海道へ上陸、各地の大雨による被害はさらに広がった。この台風 9 号により、沙流川水系平取の雨量は 108.3mm に達し、沙流川上流の平取町紫雲古津地区、ヌタツ地区、オユンベ地区、下流の門別町富川左岸地区、富川右岸地区の各所で氾濫した。被害は平取築堤が溢水、二風谷築堤が決壊するに及び、平取町では死者 1 名、負傷者 2 名、家屋全壊 1 戸、半壊 1 戸、流失 4 戸、床上浸水 60 戸、床下浸水 99 戸、氾濫面積 590ha となった。さらに門別町では家屋床上浸水 58 戸、床下浸水 87 戸、氾濫面積 270ha に及んだ。



越水寸前の去場築堤  
写真出典:北海道開発局



平取築堤での水防活動  
写真出典:北海道開発局



平取橋より上流を見る  
写真出典:昭和 37 年(1962)8 月上旬 直轄河川の洪水報告

(7) 昭和 50 年 8 月 24 日洪水

日本海を北上した台風 6 号と寒冷前線の影響で、23 日から 24 日の早朝にかけ日高地方に大雨が降り、沙流川水系の振内では、8 月 19 日から 20 日にかけて台風 5 号と同月の 22 日から 24 日にかけての台風 6 号による影響で 19 日から 24 日の雨量は 140mm になった。このため沙流川上流の平取町紫雲古津地区、苧菜去場地区、平取地区、下流部の門別町河口左岸地区、富川地区の各所で内水氾濫があった。被害は平取町が家屋全壊 1 戸、半壊 1 戸、床下浸水 5 戸、氾濫面積 30ha で、門別町では死者 1 名、床上浸水 2 戸、床下浸水 53 戸、氾濫面積 38ha であった。



沙流川左岸・門別町富浜地区洪水  
(昭和 50 年 8 月)

写真出典: 鶴川沙流川治水史

(8) 昭和 56 年 8 月 5 日洪水

オホーツク海より渡島半島を越えて日本海に達した前線および台風 12 号の影響により、3 日夜半から降り出した強い雨のため、浦賀測候所では 8 月 5 日 2 時 35 分、大雨洪水警報、雷雨強風波浪濃霧注意報を発表した。強い雨はその後も降り続き、5 日夜半までに日高 179mm、平取 290mm、富川 350mm に達し、沙流川水系平取観測所では警戒水位を 15cm 超えて 24.25m に達した。このため沙流川水系の平取で紫雲古津地区の内水氾濫、門別町では富川地区、河口左岸地区、河口右岸地区の各所で氾濫した。被害は平取町で床上浸水 3 戸、床下浸水 31 戸、門別町では死者 1 名、負傷者 5 名、家屋の全壊 27 戸、半壊 13 戸、一部破損 19 戸、床上浸水 173 戸、床下浸水 491 戸に達した。



河口右岸 表町樋門外水氾濫



富川地区 富川橋外水氾濫

写真出典: 昭和 56 年 8 月洪水 鶴川沙流川洪水報告書

(9) 平成 4 年 8 月 9 日洪水

九州地方を縦断し日本海を北上してきた中型で並みの強さの台風 10 号は、秋田市の西北西約 100km の位置で温帯低気圧に変わり東北地方北部から本道南岸を通過した。これにより 8 日夕方より降り出した強い雨のため、室蘭地方気象台は、8 月 9 日 11 時に胆振東部に大雨洪水警報を発令した。また、浦河測候所は、8 月 9 日 13 時に日高全域に大雨洪水警報を発令した。その後、強い雨が継続的に 9 日夜半まで降り続き、降り始めからの総雨量は、富川 214mm、平取 205mm に達した。このため、沙流川水系平取観測所では警戒水位を 2.80m 越えた 26.90m に達した。これによって、平取町では、床上浸水 9 戸、床下浸水 40 戸、門別町では、家屋半壊 1 戸、一部破損 2 戸、床上浸水 41 戸、床下浸水 43 戸などの被害が生じた。



さるがわせせらぎ公園付近出水状況



さるがわせせらぎ公園被災状況



コンカン川樋門付近出水状況



沙流川河口 出水状況

写真出典:平成 4 年 8 月 9 日洪水 鶴川沙流川洪水報告書(速報版)

(10) 平成 13 年 9 月 11 日洪水

北海道は 9 日から本州より伸びる気圧の谷の中に入った状態が続き、秋雨前線が 10 日から北海道付近に停滞した。11 日にかけて前線は太平洋沿岸に南下したが台風 15 号から湿った暖湿気流が入って、前線活動が活発化した。

室蘭地方気象台は、11 日 6 時 00 分に日高地方に「大雨・洪水警報」また、6 時 20 分には胆振地方に「大雨・洪水警報」を発令した。

降り始めからの総雨量は、沙流川水系日高(開)263mm、平取(開)316mm、富川(開)292mm に達する大雨となった。

このため、沙流川水系富川観測所では警戒水位を 1m46cm 上回る 5.96m、平取観測所では警戒水位を 1m54cm 上回る 25.64m に達した。



門別町せせらぎ公園浸水状況(河川公園)

写真出典:北海道開発局

(11) 平成 15 年 8 月 10 日洪水

サハリン方面を通過した低気圧に伴う寒冷前線が 8 日から 9 日朝にかけて北海道を通過しまとまった雨が降った。その後、前線は北海道の南海上に停滞した。

一方、大型で強い台風 10 号は、8 日夜四国の室戸市付近に上陸した後、9 日は本州を縦断して、三陸沖沿岸から太平洋に抜けた。この台風から送りこまれる暖湿気流の影響で北海道の南海上に停滞していた前線は 9 日朝から活動が活発となり、強い雨が降り始めた。

室蘭地方気象台は 9 日 11 時に胆振・日高地方全域に「大雨洪水警報」を発令した。

台風は 9 日夜遅くには北海道に近づき 10 時午前 2 時過ぎ襟裳岬付近を通過して十勝、釧路地方の海岸沿いを北東へ進み、10 日 6 時に根室の北で温帯低気圧に変わった。

降り始めからの総雨量は沙流川水系では、仁世宇(開)394mm、日高(開)360mm、岩知志(開)371mm。

このため、沙流川水系富川観測所では計画高水位を 60cm 上回る 7.66m、平取観測所では計画高水位を 74cm 上回る 28.29m に達した。

今回の降雨の特徴は、前線と台風による雨のため降雨継続時間が長く、さらに、台風 10 号が接近した 9 日 14 時から 10 日 0 時の間、1 時間に 20～60mm の雨が 5 時間位と強い雨が連続したことがあげられる。

平取町宿主別では、総雨量 433mm、また、平取町旭では最大 1 時間雨量 75mm と、まさに記録的な雨量となった。



沙流川富川地区浸水状況下流から望む



二風谷ダム下流から放流状況



沙流川橋出水状況

写真出典:北海道開発局

#### 4-3 治水事業の沿革

沙流川流域一帯は、地味肥沃・気候温順のため、農林業適地として入植も明治初期から始まり、逐次開発が進められた。開発が進む中で、明治 31 年 9 月、大正 11 年 8 月の大洪水などの出水による被害も大きかったが、計画的な治水事業は行われず、わずかに第二期拓殖計画の河川費により、昭和 9 年に額平川合流点から河口までの部分的な低水路工事が着手されるにとどまっていた。

その後、昭和 23 年に国費応急河川改修費により平取市街地付近の築堤に着手されたが、本格的な改修工事は昭和 25 年の北海道開発法の制定以降であり、昭和 27 年度からの北海道総合開発第一次五箇年計画では、平取、荷葉去場地区の築堤等に着手されるに至った。

一方で、計画高水流量を基準地点平取において  $3,900\text{m}^3/\text{s}$  とする沙流川改修全体計画を昭和 28 年に取りまとめ、これに従って工事を進めてきた。

その後、昭和 36 年 7 月、37 年 8 月、50 年 8 月に大洪水があり、また、流域の発展に伴う氾濫区域内人口並びに資産の増大にかんがみ、計画の見直しに着手し、昭和 53 年 3 月に基準地点平取における基本高水ピーク流量を  $5,400\text{m}^3/\text{s}$ 、上流ダム等により  $1,500\text{m}^3/\text{s}$  の洪水調節を行い計画高水流量を  $3,900\text{m}^3/\text{s}$  としして工事実施基本計画を改定した。

本工事実施基本計画にともない築堤工事をおこない、流下能力の向上および河岸の強化を図るとともに、多目的ダム建設の沙流川総合開発事業(二風谷ダムが平成 9 年度完成)などの事業を進めてきた。

平成 9 年の河川法改正を受け、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「沙流川水系河川整備基本方針」を平成 11 年 12 月に策定し、現在に至っている。

しかし平成 15 年 8 月に、基本高水を超える洪水が発生し、社会及び地域経済に大きな影響を与えたことから、地域特性を踏まえた治水対策が急務となっている。



二風谷ダム

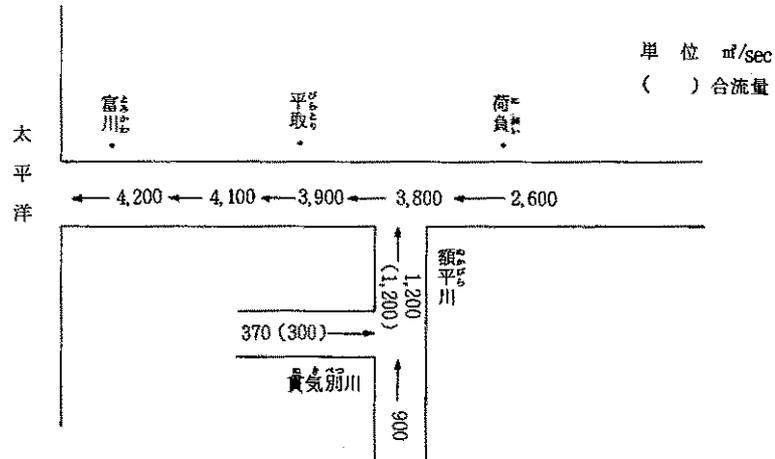


平取ダム(完成予想図)

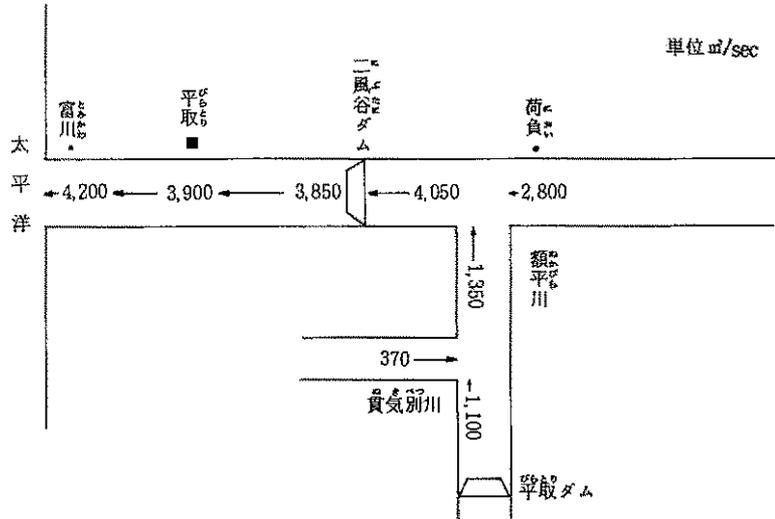
出典:北海道開発局

沙流川水系工事実施基本計画、河川整備基本方針の変遷

沙流川水系工事実施基本計画(昭和44年3月)



沙流川水系工事実施基本計画(昭和53年3月)改定



沙流川水系河川整備基本方針(平成11年12月)

